


**研究者総覧：飯野 和夫 (IINO, Kazuo)**

氏名	飯野 和夫 (IINO, Kazuo)	
職名	教授	
所属講座	国際多元文化専攻多元文化論講座	
学位（専攻分野）	博士（哲学史）・パリ第一大学	
メールアドレス	<a href="mailto:ino@nagoya-u.jp">ino@nagoya-u.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ino/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ino/</a>	
研究分野	近現代フランス思想 感覚論哲学	
現在の研究テーマ	フーコーら現代の思想家における西洋文明の再検討／コンディヤック、ボネらの感覚論哲学の比較研究	
所属学会	日仏哲学会 日本フランス語フランス文学会 日本 18 世紀学会	
主要著書・論文	<p>(論文) 「デリダのコンディヤック読解——自同性の問題を中心に」, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科『言語文化論集』, 30 巻 2 号 21 - 52 頁, 2009/03</p> <p>(翻訳) ロドルフ・ガシェ著「始原学とたわいなさ」, 別冊『環』(デリダ特集号), 藤原書店, 13 巻 119-136 頁, 2007/12</p> <p>(論文) 「ホップズ、ルソーの社会思想にみる恐怖——恐怖をめぐる思想史のための一視座」, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科『言語文化研究叢書』第 6 号, 1-15 頁, 2007 年 3 月.</p> <p>(翻訳) ジャック・デリダ著『たわいなさの考古学——コンディヤックを読む』人文書院, 200 頁, 2006 年 7 月.</p> <p>(翻訳) J. ベールシュトルド、M. ポレ編『十八世紀の恐怖——言説・表象・実践』法政大学出版局, 共訳 (1 - 14, 53 - 90, 121 - 177, 325 - 363 頁担当), 2003 年 12 月.</p>	
自己紹介文	<p>私の研究対象は広くは近現代フランス思想、より具体的には 18 世紀と現代のフランス思想です。</p> <p>大学の学部生時代は、私も当時の多くの仲間と同じように現代思想に興味を持ちましたが、大学院に進んだ段階で、そうした思想のルーツを把握しようと考え、専門的な研究対象は 18 世紀思想、特にシャルル・ボネ、コンディヤックら感覚論哲学者へと移しました。日本での学生時代は、思想研究も盛んだったフランス文学専攻の所属で、留学したフランスでは哲学史専攻に所属しました。</p>	

	<p>他方で、私は、現代指向の国際言語文化研究科の授業を担当しながら、現代の思想も並行して勉強しています。大学院の授業を担当することは一つのきっかけとはなりましたが、現代思想を学ぶことは私には自然なことです。研究の出発点から現代は意識していたわけですし、M. フーコー、デリダをはじめとする多くの現代フランスの思想家が18世紀周辺の思想を考察しているため、18世紀思想研究の立場からも、これら現代の思想家は無視できないからです。</p> <p>現在は、現代思想における西洋文明の再検討に関心を持っており、そうした側面から多元文化論講座に加わっています。趣味は美術、音楽、建築の観賞ですが、正直なところ、どれも西洋のものを中心です。ですから、完全に研究と無縁とは言えません。</p> <p>なお、私の次のホームページも参考にして下さい。</p> <p><a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ino/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ino/</a></p>		<p>翻訳書（ジャック・デリダ著『たわいなさの考古学』）</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>大学院では、フランスを中心とする近現代の思想を学びたいという人には私なりに助言ができると思います。</p> <p>また、私はとくに留学時代に西洋文化のさまざまな面にふれて以降、広く西洋文化に興味を持ち続けていますので、西洋近代文化のさまざまな面——文学、美術など——を学際的視点から研究しようと志す人にも、特に思想的背景などの面から助言ができると考えています。</p> <p>さらに、さまざまな観点において文化、文明の比較研究をしようとする人にも助言ができるのではないかと考えています。</p> <p>担当する授業は「現代文化思想分析論演習」で、近年は、自己紹介欄でもふれた、現代思想における西洋文明の再検討への関心から、M. フーコーを扱ってきました。以前には、フランス現代の思想家・批評</p>		<p>翻訳論文が掲載された『別冊環』第13号</p>

家であるデリダ、バルト、ボードリヤールらも取り上げました。近現代の思想に興味を持っていることが受講の条件です。フランスの思想が中心になりますが、著作を講読する際は英訳なども用い、フランス語を使用言語としない院生にも配慮して進めています。

なお、2011年度は私の授業は休講となります。